

行政視察報告書

経済建設 委員会委員長 片山竜美

1 日 に ち	令和 6 年 10 月 29 日 (火)
2 視 察 先	兵庫県姫路市
3 参 加 者	【委員長】片山竜美 【副委員長】加藤智章 【委員】亀井芳樹、成田康弘、玉置真一、三輪寿子、林美行 【都市計画部長】河地孝彦【議会事務局】山内祥子
4 調 査 内 容	姫路市ウォークアブル推進計画について
5 所感、主な質疑の内容、提言事項、課題等	【姫路駅北広場の整備（ハード面における人中心のまちづくり）】 ・ 姫路駅北を「歩行者優先」にするために、「ハード面における人中心のまちづくり」を行い、「キャッスルビュー」や「姫路駅北にぎわい交流広場」、そして大手前通りにトランジットモールを導入した。 ・ 整備計画の策定にあたっては、商店街連合会、市議会、商工会議所など、様々な団体から意見を集約して、市民が納得するものを作り上げた。 ・ この結果、駅周辺の地価も上昇している。 【ウォークアブルな環境づくりの推進】 ・ 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目標に、大手前通りの整備をはじめ、中心市街地で東西南北の移動が快適にできるよう、公共空間を利活用できる仕組みをつくった。 ・ 姫路城につながる大手前通りは、歩道を広くし、休憩できる椅子やスペースが十分に確保されていた。また、イベント時にはその歩道にマルシェ等を開催し、シャンゼリゼ通りを超える通りを目指して努力している。 【リノベーションまちづくりの推進】 ・ 姫路駅西エリアは、モノレールが通るなど、かつてはにぎわいを見せていたが、現在は空き店舗ばかりで、老朽化していた。 ・ 姫路市では、リノベーションスクールを開講し、補助金も出しながら、そのエリアのリノベーションを推進してきた。その結果、徐々に店舗が増え、今年は補助金の上限である4件について、すでに活用が決定しているとのこと。 ・ また、同エリアでは、「旧市のきさき朝市」を開催したり、「こどものASOBIBA ひめじ基地」として、子どもが自由に安全に遊べる空間にする計画を立てたりするなど、さらなる活用を試みている。

	<所見> * 前日に、街を散策し、姫路市の事業の概要を掴んでから、市役所を訪問したのがよかった。説明の内容がよく理解できた。 * 市が提案した最初の駅北の整備計画が、市民から受け入れられず、改めて各種団体から意見を集約して計画をやり直したところがすごいと感じた。時間はかかるが、市民合意の大切さを感じた。 * 姫路城という素晴らしい観光名所があっても、「人口減少」や「観光客の滞留の少なさ」は課題であった。そのために実証実験を繰り返しながら、取り組みを進める市の姿勢に感動を覚えた。 * 駅をスタートして、姫路城まで歩いてみたが、城という目標物があるためか、さほど疲れは感じず、歩くことができた。道幅も広く、途中で休憩場所もあり、歩くのに最適なよう整備がされていた。しかし、一観光客としてみると、立ち寄りたい店がなかったように思う。大手前通りには飲食店よりも企業のビルが多く、そこが課題であると市の方も話してみえた。もっと以前から整備がされていればよかったと話されたことが印象的であったと同時に、街づくりの難しさを感じた。 * ここまで大掛かりにはできないにせよ、多治見市を魅力ある街にするためのヒントがあったように思う。しっかりと考え、実現できればと思う。
6 写 真 等	 

※視察先1件に1枚作成すること。